



地域とともに歩み、
地域の未来を拓く学校

湖南省立石部小学校
校報第151号
令和4年(2022年)2月15日
文責：校長 法山 由紀子

石部小学校から発信！！ ～5年生「未来の環境を守る行動宣言」～

「未来の環境を守る行動宣言」

★「琵琶湖の環境とわたしたちの暮らし」について学習したことで、工業の発展や経済の成長以外にも大切なことが「環境」ということがわかった。なんで環境が大事なのかは、次の世代や自分の世代が住み続けられる暮らしにするためだ。

だからこそ、私、青木凜桜は、資源を大切に、ゴミを分別してゴミ箱に捨てたり、エネルギーを節約したりして、自分の生活の中で環境に貢献することを宣言します。
令和4年2月8日

★学習する前より、環境について考えたり、びわ湖やその他の川などの環境を守るために何か自分にできることがないかなと思ったりしました。

だからこそ、私、関 亜衣梨は、いらぬものを買ったりもらったりしない。もし、買ったりもらったりしたら、最後まで使い切ることを宣言します。
令和4年2月8日

5年生は、2月21日(月)に「びわ湖フローティングスクール」で学習船「うみのこ」に乗船します。学習の舞台となる「琵琶湖」は、まさに「母なる湖」。私たち滋賀県民の宝であり、誇りです。

フローティングスクールに向けて、総合的な学習の時間(石部小では「あぼしの時間」)に、「琵琶湖」に続く地元「宮川」について、石部西区井上静雄様をゲストティーチャーに招いて学習をしました。さらに、フローティングスクールの先生方に出前授業をしていただき、事前学習を積みました。その中で、琵琶湖が今から約40年前に、赤潮やアオコが大量発生し水質が悪化したお話も伺いました。(私が、中学・高校生の頃です。)

そこで、5年生は社会科の学習をとおして「約40年前、なぜ琵琶湖の水質が悪化してしまったのだろうか。」「琵琶湖の水質は、どのようにして改善されたのだろうか。」について、毎時間さまざまな資料に基づいて、その原因や人々の思い、行動を考えることで自分の思いも深めてきました。

そして、このような一連の学習を踏まえ、社会の一員として琵琶湖の環境保全について、自分達にできることをまとめました。それが、「未来の環境を守る行動宣言」です。学習を深めたからこそ、この宣言に行き着きました。力強い思いを石部小学校から発信します！



6年生から緊急告知！！ ～「石部小笑顔満開プロジェクト」を発信します～

6年生は、「あぼしの時間」に、9月から「笑顔満開プロジェクト」と題して「いじめ」「人権」について、これまで5か月間とことん追求してきました。いよいよ最終段階に入り、「発信」の取組を展開します。卒業直前になりますが、次号ではその様子をお伝えします。

令和3年度「湖南省の小さな詩人たち事業」入賞作品決定！

今年度の標記事業において、石部小学校から次の2作品が入賞しました。
作者の思いや情景を想像しながら、味わって読んでみてくださいね。

【小学校1～3年生「五七五部門」佳作】

あかとんぼ かぜでとくに いっちゃんか 石部小学校 1年 出口 悠音

【小学校4～6年生「五七五部門」佳作】

くりおちて 木々はこう葉 ぼくはここ
この秋の中に ぼくは生きてる

石部小学校 5年 泉 祐成

本気で取り組んでいます！！ 「もくぴかそうじ」

代表委員会からこのような呼びかけがありました。

「みなさん、『もくピカそうじができるいしべっ子』になるため全校で取組を始めます。『もくピカそうじ』とは、そうじに関係ないおしゃべりをする
ことなく、そうじに集中して、自分の担当場所を一生懸命にぴかぴかにするそうじです。しーんとした中で、そうじの音だけが聞こえるよう、そうじの音楽を止めます。一生懸命もくもくと掃除をしていることが誰が見てもわかるような「もくピカそうじ」ができるいしべっ子になりましょう。」

今、そうじの時間は、全校がしーんと静まりかえっています。次年度につながる本気の取組をこの調子で全校みんなで続けていきたいです。



「詩の暗唱」で「ことば」への感性を磨く

石部小学校では、1～6年生まで「詩の暗唱」に取り組んでいます。湖南省教育委員会が発行している「ことばの宝石箱」を活用して、各学年年間約10作品を暗唱します。

その「ことばの宝石箱」の最後には、「85甲子園の詩」という作品が載っています。

85 甲子園の詩

阿久 悠

甲子園には石ころがない
だからプレイが楽しい
そんな気楽さが
奇跡につながったのかもしれない
この最高の晴舞台で
思いきり躍動することが嬉しいと
素直に歓ぶ心が
無心という
得難い宝物になったのかも知れない
自分が自分であるために
虚飾を捨てる健気さが
勝利を呼んだのかも知れない
やれば出来るという言葉が
空念仏でないことを証明した
甲西高校ナイン
猛暑の中のさわやかな風のように
陽炎の彼方の夢幻の夏景色のように
人々の心に夢を与えた
ミラクル甲西
だから甲子園は見逃せない
きみたちが一つ勝つごとに
それを我がものとして喜んだ球児が
何万人といたことだろうか
甲子園は遠いものだと
勝つことは困難なことだと
はるかに遠い夢としている球児たちに
希望を与えたいと
そして きみたち自身
猛烈な夏の猛烈な甲子園で
身をもって証明した青春は
一万ページの本を越える
多分 来年の春
初めての卒業式は
誇りに満ちた明るいものになるだろう

出典 「甲子園の詩」 スポーツニッポン新聞

先日、6年生がこの詩の暗唱にチャレンジしました。実は、私は1985年にこの「ミラクル甲西」の活躍を甲子園のスタンドで応援する幸運を得ました。6年生が一生懸命暗唱する姿に触れながら、改めてあのときの感動がよみがえってきました。

「素直に歓ぶ心が無心という得難い宝物になる」「自分が自分であるために虚飾を捨てる健気さが勝利を呼ぶ」・・・6年生にとれば、その言葉のもつ深い意味を実感をもって知るの、ずっと先のこともかもしれません。「1万ページの本を越える青春」の物語はまだこれから始まるのかもしれない。でも、いつかこの詩の言葉がもつ意味に、きっと気づく人があるはずです。

暗唱を聴きながら、「人生のなかでそんな経験が出来たら素敵だろうな。」そして、「甲子園に負けないこの石部小学校というステージを卒業する6年生が、今後さまざまな経験をしながらたくましく成長してほしいな。」と心から願ったのであります。これからはいしべっ子には「詩の暗唱」をとおして、言葉のリズムの楽しさを感じたり、言葉のもつ意味のおもしろさや深さを味わったりして、言葉への感性を磨いてほしいと思います。最後に、どの学年も1年間「詩の暗唱」をよくがんばりました！



ピクトグラムを設置してくださいました！

2月6日（日）CS校外生活委員会のみなさんが、「増水」の注意喚起を促すピクトグラムを校区内の18箇所に設置してくださいました。当日は、冷たい風が吹き付ける中での作業となりましたが、子どもたちのために！と一丸となってがんばってくださいました。設置場所の提供等にご協力いただきました地元の皆様にもこの場をお借りして心よりお礼申しあげます。

このようにCS（学校運営協議会）の理事ならびに運営委員の皆様には児童の通学路の安全にもご尽力をいただいています。

